

幸せな贈り物



一気に終わらせる道!

悪業の報いに捕えられた人生 「業」とは、からだと言と意味で行うしわざで、カルマン(Karman)と言います。一つの行為は原因がなければ起きなくて、ひとまず起きた行為は必ずなんらかの結果を残して、また、その結果は次の行為に大きく影響を及ぼすということです。その原因・行為・結果・影響を総称して「業」と言います。それは、はじめに輪廻思想とともにインド哲学の初期ウパニシャッド思想として発生したのですが、のちに仏教に導入されて、人間の行為を規制して、また生きていくすべての衆生に輪廻の軸になる重要な用語になりました。ムブルスノウオン会報集である『般若船』のソクウ僧侶の文によると、衆生が3生で輪廻する理由は因果応報のためだということです。前世に犯したなにかの行為があれば、それをみな返して死ななければなりません。それで次の生に受けなければならない悪業の報いがなくなるのですが、もしみな返すことができなくて死んだら次の生に必ず受けなければならないから、再び生まれて前世に返すことができなかつたことを返さなければなりません。仏教は、窮極的に悪業の報いを受けないで輪廻しないことを目的にします。一般人は熱心に念仏をとって、極楽世界に出れば輪廻が中止されて修行者は悟りを得て、仏

陀の世界に入れば輪廻は中止されます。ところで、悟っても前世の悪業の報いはそのまま残っているのだから、死ぬ時までその応報は受けなければなりません。すなわち、悟れば輪廻が中止されるのは事実であっても、それは次の生涯に限るということで、すでに前世の結果によって体を受けて生まれた以上は、前世の悪業の報いから避けることはできないのです。もし、すべてのことを前世の悪業の報いだと受け入れるなら、私たちの運命は克服できません。どんなに重い前世の悪業の報いも、念仏をがんばってとなく、心を磨くことを一生懸命にすれば悪業の報いは消滅するようになっているということです。釈迦も生涯、修行と精進の道を歩きながら、なくなる時まで人生が何かを悟ろうとしたのですが、悟ることができないことが三つあるが、それを名づけて3不だと言いました。すなわち、業報、無蓮、三世のことで、この中でも業報衆生制道不能は、衆生の悪業の報いは人間が制度的にはどのように調節しても統制できないということです。これが人間の運命ならば、どのようにしなければならぬのでしょうか。

聖書は運命に捕われた人間の人生スケジュールをこのように語っています。最初に自分も知らない間に目に見えない悪魔の子どもとして生きていくようになります。それで、罪を犯したくなくても、犯さずにはいられず、幸せでいたくても幸せなはずがありません。二番目、人生を生きていけば生きていくほど、不安と恐れはずっと訪ねてきます。それで、偶像崇拜をしたり、先祖供養やお祓いをしてもらったり、お守りに頼って、引っ越しすることさえも、吉日や厄日に縛られて、車にステッカーやお守りをつけて通ったりもします。三番目、多くの努力と成功の中でも、心のむなしさはより一層激しくなって、結局、目に見えない心の病気になるって、激しい悪夢や金縛りにあって不眠症、幻聴と幻覚に苦しめられ、極度の不安でうつ病、そううつ病になり、日常生活まで正しくできなくなる場合がますます多くなっています。四番目、自然に肉体の健康も、人間関係も崩れるようになって、あらゆる病気に苦しめられるようになります。五番目、結局、人間は死ぬようになって、地獄という永遠な苦痛と刑罰の中に落ちるしかありません。六番目、私が持っていた良い点と悪い点など、

霊的な問題と偶像崇拜の呪いが驚くことに、子どもにすべて伝えられて、不幸の相続が続くようになるという事実です。

それなら、はたして人間を不幸にさせる悪業の報いはどこで始まり、どのように解決できるのでしょうか。

悪業の報いから解放された人生 聖書は人間の不幸の開始と解決策を次のとおり、明らかに語っています。本来、人間は神様のかたちとして神様を知って礼拝できる霊的な存在で、神様と交わりながら、全地を征服して治める祝福された存在で創造されました。魚が水の中で、鳥が空中で、木は土の中に根をおろして生きなければならないように、人間は神様とともに暮らしてこそ真の幸せを味わうようになります。これが神様の創造原理です。

ところで、なぜ人間にこのように解決できない不幸な問題がたくさん生じるようになったのでしょうか。神様と人間の間には約束がありました。ところが、人間はサタン(悪魔)の誘惑で、この約束を破る罪を犯して、罪を犯した結果人間は神様を離れるようになりました。神様を離れた人間は、サタン(悪魔)の奴隷になってしまいました。その結果、人間には呪いと災いと苦痛と死が入ってきて、運命と運勢に縛られるようになりました。最初の人間であるアダムとエバが罪を犯して後に、すべての人間は原罪を持って生まれるようになり、私たちのたましいは、神様を離れて死んだ霊になりました。これが、私たちの人間の根本問題です。人間は結局、神様を離れて、サタン(悪魔)に支配されながら運命に陥って、不幸な人生を生きていくようになったのです。多くの人々が宗教、善行、哲学、科学などを通してこういう不幸の問題を解決しようとして、神様に会おうと努力するのですが、人間自らの力ではこの問題を解決できないのです。それで、神様は人間の問題を解決して下さるために、人間を救う計画をたてられました。その方法は、神様が人間となって、この世に来られることでした(ヨハネの福音書 1:14、ローマ人への手紙 5:8)。その方がまさに「イエス・キリスト」です(マタイの福音書 1:21)。イエス・キリストは、神様を離れたすべての人間が神様に会える唯一の道である真の預言者です(ヨハネの福音書 14:6)。イエス・キリストは、十字架で私たちの罪の代わりに死なれることによって、私たちのすべての罪を解決して、呪いと災いから解放させられた真の祭司です(マルコの福音書 10:45、ローマ人への手紙 8:2)。イエス・キリストは聖書の預言のとおり十字架で死んで、3日

後に復活され、今でも人間を困らせて地獄に引っ張っていくサタン(悪魔)のすべての権威を完全に滅ぼされた真の王です(ヨハネの手紙第一 3:8)。それで、聖書はイエス様を「キリスト」だと言っています。もう一度話せば、人間が絶対に解決できない根本問題を完全に解決された方だということです。

それなら、どのように私のすべての問題から解放されて救われることができるのでしょうか。イエス様をキリストと信じて、私の心に受け入れれば良いのです(ローマ人への手紙 10:9-10、ヨハネの福音書 1:12)。この時、神様の霊である聖霊様が、私の中に入っこれ、神様の子どもになる身分を得るようになり、本来の人間が味わった祝福と権威を回復するようになります。今、この時間にあなたはイエス・キリストを受け入れることによって、神様の子どもになって、すべての運命と悪業の報いから解放されることができ(ヨハネの黙示録 3:20、ヨハネの福音書 5:24)。真実な心で下の祈りをすれば良いのです。

神様の子どもになる受け入れの祈り

愛の父なる神様、私は罪人です。神様を離れてサタンの支配に縛られて、奴隷ようになって生きてきました。しかし、今、この時間、イエス・キリストを私の救い主、私の主人として受け入れます。イエス・キリストが神様に会う唯一の道であり、サタンの権威を打ち砕いて、すべての罪と呪いと災いから私を解放されたキリストであることを信じます。今、私の中に入ってきて私の主人になってください。今から私の生涯を細かく導いてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

こういうわけで、今は、キリスト・イエスにある者が罪に定められることは決してありません。なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あなただけを解放したからです。(ローマ人への手紙 8:1-2)

3つの中心、3つの今日

神様は今でもみことばと祈りと伝道の救いの働きを成し遂げておられます。それなら、私たちの生活がこの祝福の中に入るようにしなければなりません。毎日、毎日、今日のみことば、今日の祈り、今日の伝道が出てこなければなりません。これが最も価値がないように見られるのですが、最も大きい答えになります。神様は簡単な方法をくださいました。皆さんが神様のみことばを見つけようとするれば、神様は根本的な答えをされます。皆さんが今日の祈りと伝道を見つけようとするれば、神様は皆さんに先立って主の御使いを送られるようになっていきます。クリスチャンがこれができないということは、根本的に揺れているということです。今日のみことばと祈りと伝道が私にないということは、ある面では道に迷ったことなのです。そうしたら、いろいろな言葉、いろいろな考えがみな浮かんでくるようになって、いろいろな疑いと葛藤が生まれてくるのです。それで、今日のみことばを握らなければなりません。今日のみことばが何かと握る瞬間に、神様は天の軍隊を送られると聖書になっています。皆さんは神様の子どもです。今日の祈りが何か握る瞬間に聖霊が働かれます。私が何によって会社と人を生かせるのか考える瞬間に、神様は力で働かれるようになっていきます。それが今日の答えです。「私はできることはたくさんないが、神様の大きい契約の中で今日の祈りが何か。今、この時、神様くださるみことばは何か。私がどのようにすれば、あの現場を生かすことができるのか」このことを考えるだけだったのですが、残りは神様がみななさいました。神様は今でもみことばと祈りと伝道を成し遂げておられます。

みことば 「初めに、ことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。」(ヨハネの福音書 1:1)「神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄の分かれ目さえも刺し通し、心のいろいろな考えやはかりごとを判別することができます。」(ヘブル人への手紙 4:12)「あなたのみことばは、私の足のともしび、私の道の光です。」(詩篇 119:105)

祈り 「あなたがたは今まで、何もわたしの名によって求めたことはありません。求めなさい。そうすれば受けるのです。それはあなたがたの喜びが満ち満ちたものとなるためです。」(ヨハネ福音 16:24)「何も思い煩わないで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、人のすべての考えにまさる神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。」(ピリピ人への手紙 4:6-7)

伝道 「事実、この世が自分の知恵によって神を知ることがないのは、神の知恵によるのです。それゆえ、神はみこころによって、宣教のことばの愚かさを通して、信じる者を救おうと定められたのです。」(コリント人への手紙第一 1:21)「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」(使徒の働き 1:8)

神様の子どもたちの五つの確信

- 1 **救いの確信**：イエス・キリストを信じて受け入れた私は、神様の子どもになって救いを受けました(ローマ 8:15~16、1ヨハネ 5:10~13)
- 2 **祈り答えの確信**：神様の子どもはイエス・キリストのお名前でも何でも求めることができ、神様はみこころ通りに必ず答えてくださいます(ヨハネ 15:7)
- 3 **導きの確信**：神様は聖霊で私の中におられ、私のすべての人生を治めながら導かれます(ヨハネ 14:26~27、箴言 3:5~6)
- 4 **赦しの確信**：私のすべての罪はイエス・キリストのあがないの血の力で解決され、神様はだれでも罪を悔い改めれば許して下さいます(1ヨハネ 1:9、ローマ 3:24)
- 5 **勝利の確信**：救われた私は、世の中に勝たれたイエス・キリストによって、どんな問題の中でも信仰で勝利することができます(ローマ 8:31~37、1ヨハネ 5:4)

神様の子どもたちの毎日の祈り

父なる神様、イエス・キリストによって神様がいつも私とともにおられて、導かれることを感謝します。

今日も、すべての生活の中で、神様の子どもになった祝福を味わうように、聖霊で満たしてください。

私の家庭と現場と行くところごとに福音を邪魔して困らせるすべてのサタンの勢力を権威あるイエス・キリストの御名で縛ってください。

どんなこと、どんな問題でも、解決者であるイエス・キリストに任せて、その中で神様のより良い計画を発見しながら、聖霊に導かれる生活になりますように。

そして、私の生活を通してイエス様がキリストであるということがあかしされ、私の現場に神の国が臨むようにしてください。毎日、私の生活の中で神様の願いである世界福音化の契約を握って勝利できますように。

今も私とともにおられるイエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン





幻聴で 苦しんでいませんか

ある人がこういうことを訴えた。自分の父親が、ある日から耳に何かの音が聞こえると言った。「年をとって耳が悪くなったんだなあ!」と思ったが、そのような状態を越えた、深刻なことがずっと生じて家族にも苦痛を与えているということだった。はじめて幻聴が聞こえた時は、ただ念仏の声だけ聞こえると言っていたが、少し後には、突然、自分は釈迦だと言って、弟子たちが待っていると言いながら家を出て行ってしまった。父は幻聴がたびたび悪口を言って殺すと言うから、だれかが自分に電波を送って話を伝えるのだと言って、だれかがからだを操縦すると言いながら、家の電気製品をみなたたき壊して、後には家族まで疑って、食べ物と水に毒を入れたのではないかと言うので、これをどのようにすれば良いかということだった。

健康な人はわからないだろうが、時々、こういう霊的な病気を訴える人々がいる。その中の一つが幻聴だ。辞書的な意味で幻聴(Auditory Hallucination)は聴覚の錯覚で、耳と脳が声を認識する方式のために、実際に出していない声が聞こえるように錯覚を起こす場合を言う。しかし、問題はこういう幻聴が自然科学や医学の範疇を越えた形態を持つためだ。人は肉体を持っていて、たましいを持っている。肉体的な病気から来る幻聴は健康を回復して精神科治療を受ければ良いが、たましいの問題から来る幻聴はそのような医学的治療が全く役に立たないのだ。確かに自分には聞こえるが、他の人には聞こえない声によって生活の困難を受けたり、危機の生活を送る人々がたくさんいる。

本来、人間は神様の傑作として、完全で幸せな存在として造られた。しかし、サタンにだまされて神様を離れた以後に、人間には幸せという単語がなく

なって、苦しみを与えるサタンに従って生まれた人々は、サタンのおもちゃとして一生を問題の中で生きていかなければならない。サタンが与える問題を霊的問題と言うのだが、その中の一つが精神的な問題だ。人間の構造が多様なので、それにともない精神疾患も種類が多いが、そのうちの一つが幻聴だ。自分には明らかに聞こえるので実在する声の現象なのに、周辺の人が理解することができないから気に障って、さらに難しいのは解決の道を探せないのだから、より一層苦痛を感じるのだ。しかし、聖書は意外にやさしい答えを与えている。今、苦しんでいる人の位置が問題なのだ。ごみのある場所に立ってハエが多いと不平を言うのは、ハエが問題でなく、私がそこにいることが問題である。はやくごみの場所を出て花畑で行けば、ハエに会わなくなるのだ。神様を離れているので、神様がない現象が現れるので、神様に会いさえすれば、そのような悪い現象も消えるのだ。

それを確認するために遠くへ行く必要はない。周辺のクリスチャンに尋ねてみれば答えは簡単に出る。ひょっとして今でも何かの音が聞こえたり、その声が負担になって苦しいならば、神様と反対側にいるので、神様に会う真の道であるイエス・キリストを通して神様のそばにきさえすれば、すべての問題が解決される。それで、伝道者が皆さんの周囲をぐるぐる回りながら助けてあげようとするのだから、隠さずに自由に言ってほしい。

チョン・ヒョングク牧師(福音コラムニスト)

*相談したい方はこちらまでどうぞ